

米づくりのさかんな地域① (教科書 66～87 ページ)

氏名()

①あなたが家で食べている米は、どこでつくられたもので、何という名前ですか。

米の産地	米の名前

②米の生産量が多い都道府県ベスト5はどこでしょうか。教科書 67 ページウの「都道府県別の米の生産量」で調べましょう。

1 位	2 位	3 位	4 位	5 位

③たくさんの米をつくるには、どのような自然条件が必要ですか。教科書 67 ページを読みながら答えましょう。

[illegible]

④新潟県や北海道、東北地方は、どうして米づくりに向いている場所なのですか。
教科書 67 ページを読みながら答えましょう。

--

⑤新潟県南魚沼市は、どのような自然条件が米づくりに向いているといえるでしょうか。教科書 64 ページ、68～69 ページを見て答えましょう。

気 候	
地 形	

米づくりのさかんな地域②（教科書 66～87 ページ） 氏名（ ）

①米づくり農家は、安全でおいしい米をたくさん生産するためにどのようにふうや努力をしていると思いますか。予想してみましょう。

②南魚沼の三輪さんがしているくふうや努力を教科書 72・73 ページを見て調べ、をうめましょう。

種もみを温水につける

種もみを湯につけて したり、
温水につけて発芽をうながす。

稲かり

を使うと、
30分で10 ^{アール} のかり取りができる。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
三輪さん の米作り				種まき・苗作り			除草					
				田おこし・しろかき	田植え		水の管理			稲かり		機械や道具の 整備・片づけ
				肥料をまく			を加える・農薬			乾燥・もみすり・出荷		

しろかき

水田の土を で
かき混ぜながら平らにする。

を加える

天気の悪い日が続くと、稲の成長が悪く
なるので様子を見ながら加える。

米づくりのさかんな地域③ (教科書 66～87 ページ)

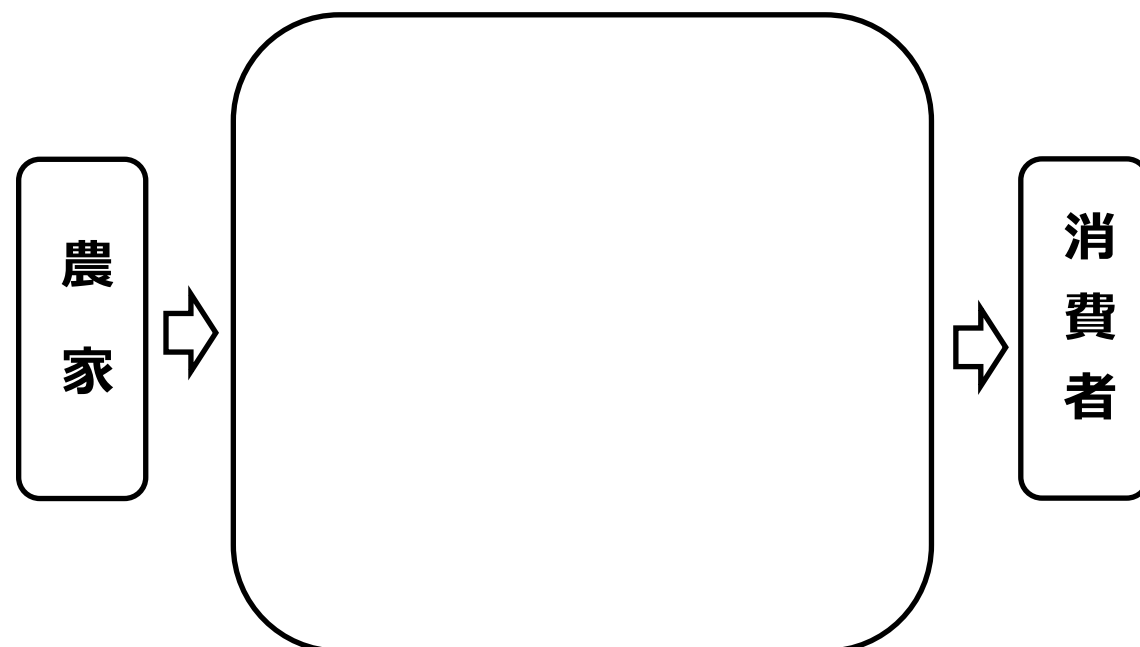
氏名()

- ①農家の人たちは農薬や化学肥料^{ひりょう　へ}を減らすために、どのようにくふうをしている
 でしょうか。教科書 74・75 ページを見て調べましょう。

【農薬を減らすためのくふう】

【化学肥料を減らすためのくふう】

- ②米が農家のもとから消費者にとどくまでには、どのような人たちが関わっているでしょうか。教科書 76・77 ページで調べて書きましょう。



- ③わたしたちが買う米の値段には、どのような費用がふくまれているでしょうか。

[illegible]

- ④おいしくて、病気に強い米をつくるために、全国の研究所は何を行っているのでしょうか。教科書 78 ページを見て調べましょう。

【おいしくて病気に強い米をつくるためのくふう】

- ⑤教科書 78 ページア・イの資料のように、昔に比べると同じ広さでの生産量が増えたり、作業の時間が短くなったりしているのはどうしてだと思いますか。

米づくりのさかなな地域④（教科書 66～87 ページ）

氏名（ ）

①農業機械が広まったり、耕地整理が行われたりする前と後では、米づくりはどのよう
に変わったでしょうか。教科書 79～81 ページを調べ、表に整理しましょう。

農業機械	前	
	後	
耕地整理	前	
	後	

②教科書 82 ページア「米の生産量と消費量の変化」のグラフを見て考えましょう。

○生産量と消費量は、全体としてどのように変化していますか。

○生産量の変化と消費量の変化には、どのような関係があると思いますか。

○生産量と消費量は、これからどうなると思いますか。

③米づくりがかかえる課題を教科書 82・83 ページで調べましょう。

○米の消費量が 続けている。

○近年、国による が見直され、産地や生産者が米の
生産量を自由に決め、自由に米を売れるようになった。そのため、産地どうし
の競争がはげしくなった。

○農業で働く人の数が、 。

特に、年齢の 人の数が少なくなっていて、あとつぎのいな
い農家が増えている。

米づくりのさかんな地域⑤（教科書 66～87 ページ）

氏名（ ）

①教科書 84・85 ページア～エの取り組みは、「米の消費量が減っている」「農家の数が減っている」という課題をくいとめるために、どのような意味があるでしょうか。考えたり、調べたりしたことを書きましょう。

ア	玄米を材料に使ったベーグルパンづくり	
イ	地域の農家が集まる勉強会	
ウ	農業の技術 ぎじゅつ を学ぶ	
エ	農業体験	

②教科書 85 ページを読み、米の消費量を増やし、米づくりを続ける人を増やすために、農家の人たちが取り組んでいることを調べましょう。

③南魚沼市で米づくりがさかんな理由を、「自然条件」「農家のくふうや努力」「農家を支える人々ささ」の三つの見方から考えましょう。

【自然条件】	だから、南魚沼市では米づくりがさかんだ。
【農家のくふうや努力】	
【農家を支える人々】	

④これからの米づくりに大切なことは何だと思いますか。考えを書きましょう。

が大切だと思う。

なぜなら、

解答

)

カ。

ウの

—

④新潟県や北海道、東北地方は、どうして米づくりに向いている場所なのか。
教科書 67 ページを読みながら答えましょう。

- ・大きな川の下流に広い平野があるから。
- ・冬にたくさんの雪がふり、水不足の心配がないから。
- ・夏の昼の気温が30℃以上になり、昼と夜の気温差が大きいから。

⑤新潟県南魚沼市は、どのような自然条件が米づくりに向いているといえるでしょうか。教科書 64 ページ、68～69 ページを見て答えましょう。

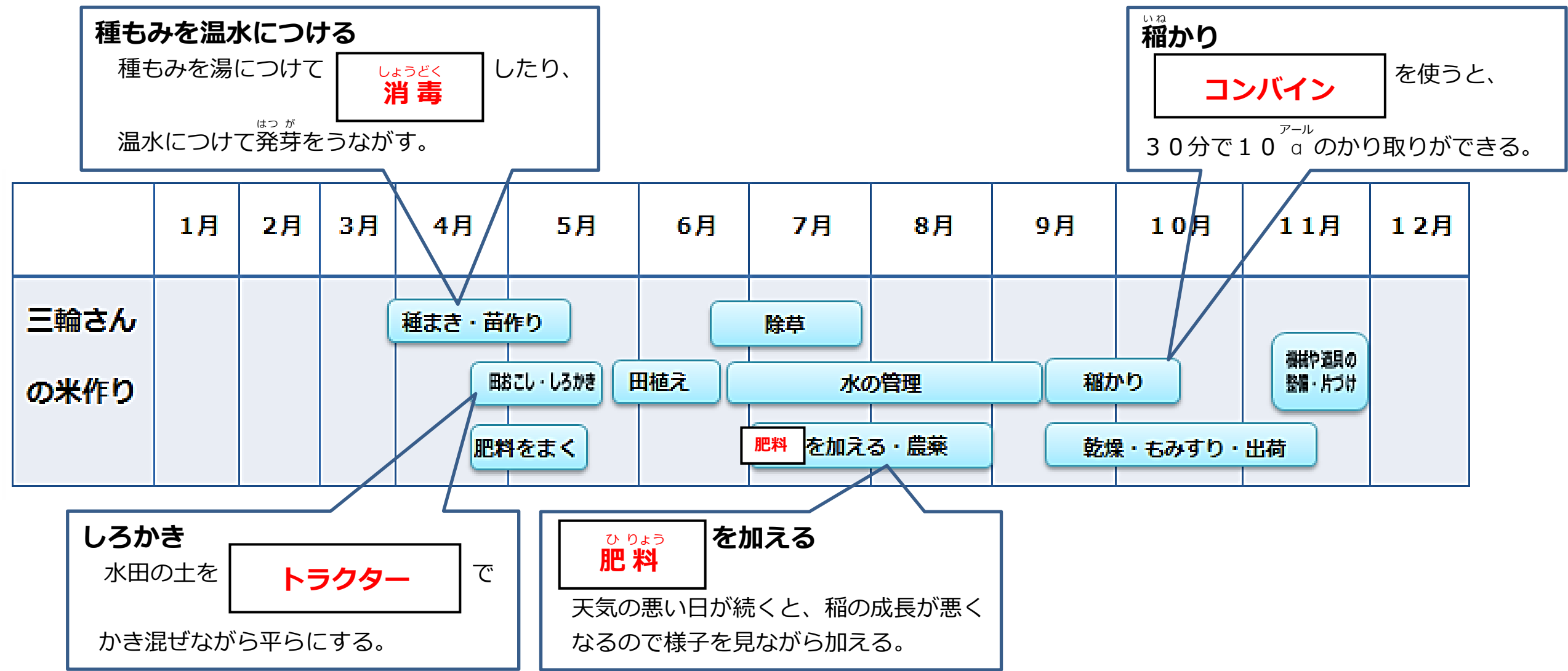
気候	・ 冬は雪が多く、2 m近く積もることもある。春には雪がとけて、豊かな水と栄養分を土にもたらす。 ・ 夏はむし暑く、東京より平均最高気温が高いが、平均最低気温は東京よりも低く、昼と夜の気温差が大きい。
地形	・ 平らな土地の真ん中を川が流れている。 ・ 雪どけ水が流れてくる。 ・ 周りが山に囲まれている盆地のような地形で、昼と夜の気温差が大きい。

米づくりのさかんな地域②（教科書 66～87 ページ） **解答** 氏名（ ）

①米づくり農家は、安全でおいしい米をたくさん生産するためにどのようにふうや努力をしていると思いますか。予想してみましょう。

自分の考えを書きましょう

②南魚沼の三輪さんがしているくふうや努力を教科書 72・73 ページを見て調べ、をうめましょう。

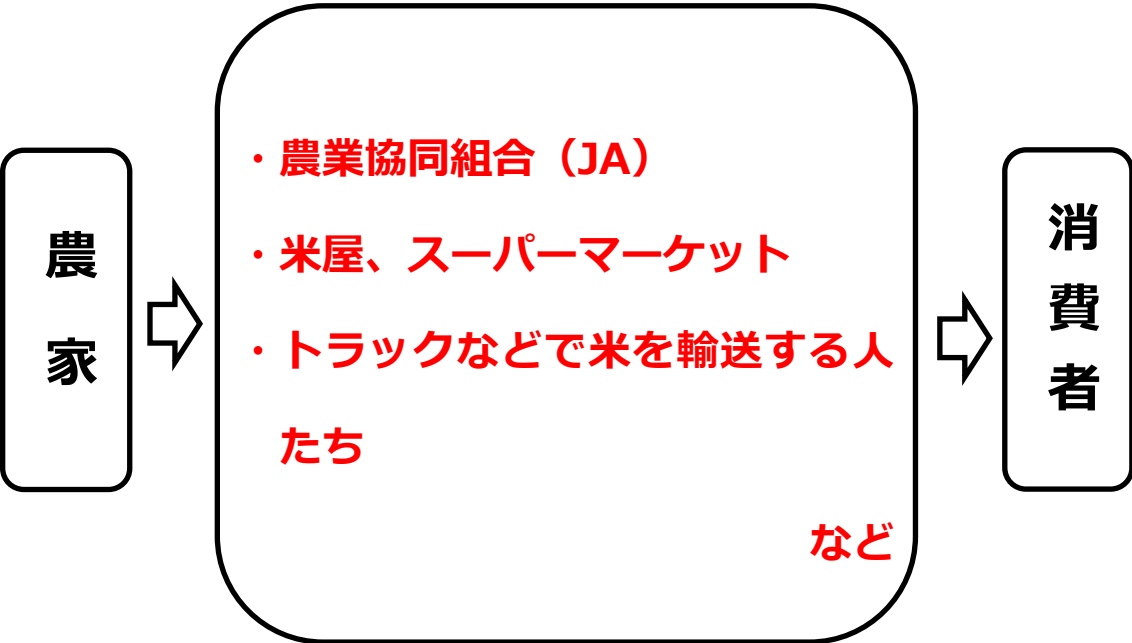


米づくりのさかんな地域③ (教科書 66～87 ページ) **解答**
氏名()

①農家の人たちは農薬や化学肥料を減らすために、どのようにくふうをしている
でしょうか。教科書 74・75 ページを見て調べましょう。

- 【農薬を減らすためのくふう】
- ・ 水田にカモを泳がせて、雑草や害虫を食べさせる。
 - ・ 水田に玄米黒酢をまいて、害虫の発生を防ぐ。
- 【化学肥料を減らすためのくふう】
- ・ 化学肥料のかわりに、たい肥や米ぬか、もみがらなどを使う。
 - ・ 水田に玄米黒酢をまいて、稲の成長を助ける。

②米が農家のもとから消費者にとどくまでには、どのような人たちが関わっている
でしょうか。教科書 76・77 ページで調べて書きましょう。



③わたしたちが買う米の値段には、どのような費用がふくまれているでしょうか。

- ・ 農家の収入や機械代など、米の生産にかかった費用
 - ・ 共同で使う施設の使用料
 - ・ 商品のふくろ代
 - ・ 流通にかかる費用
 - ・ 広告にかかる費用
 - ・ スーパーマーケットの利益
- など

④おいしくて、病気に強い米をつくるために、全国の研究所は何を行っているで
しょうか。教科書 78 ページを見て調べましょう。

- 【おいしくて病気に強い米をつくるためのくふう】
- よい品質をもった品種をかけ合わせて、新しい品種を生み出す品種改良をしている。

⑤教科書 78 ページア・イの資料のように、昔に比べると同じ広さでの生産量が
増えたり、作業の時間が短くなったりしているのはどうしてだと思いますか。

自分の考えを書きましょう

米づくりのさかなな地域④ (教科書 66～87 ページ) 解答

氏名 ()

①農業機械が広まったり、耕地整理が行われたりする前と後では、米づくりはどのよう
に変わったでしょうか。教科書 79～81 ページを調べ、表に整理しましょう。

農業機械	前	・すべて手作業で時間がかかった。 ・田植えや稲かりは、おおぜい大勢で共同作業していた。
	後	・作業が楽になり、作業にかかる時間も短くなった。 ・少ない人数で作業ができるようになった。 ・費用が多くかかるようになった。大けがをする危険もある。
耕地整理	前	・水田が小さく入り組んでいて、山に近い場所は水を引きにくく、水田を増やしにくかった。
	後	・水田が広く整えられ、大型の機械が使えるようになった。 ・用水路と排水路が整備され、必要なときに必要な量の水を水田に取りこめるようになった。

②教科書 82 ページア「米の生産量と消費量の変化」のグラフを見て考えましょう。

○生産量と消費量は、全体としてどのように変化していますか。

どちらも減っている。

○生産量の変化と消費量の変化には、どのような関係があると思いますか。

消費量が減ってきたから、国が生産量を減らした。

○生産量と消費量は、これからどうなると思いますか。

自分の考えを書きましょう

③米づくりがかかえる課題を教科書 82・83 ページで調べましょう。

○米の消費量が減り続けている。

○近年、国による生産調整が見直され、産地や生産者が米の生産量を自由に決め、自由に米を売れるようになった。そのため、産地どうしの競争がはげしくなった。

○農業で働く人の数が、減っている。

特に、ねんれい年齢のわかい人の数が少なくなっていて、あとつぎのいない農家が増えている。

解答

)

ア

ア

玄米を材料に使ったベーグルパンづくり

**(例) 米の新しい食べ方を提案して、
米の消費量を増やす。**

イ

地域の農家が 集まる勉強会

(例) おいしい米を生産するために、地域の農家どうしで米づくりの技術を教え合い、米の消費量を増やす。

ウ

農業の技術ぎじゅつを
学ぶ

**(例) 農業で働くことをめざす人に
技術を伝えて、農家の数を増やす。**

I

農業体験

**(例) 米づくりの喜びや地域の
みよくを伝えて、農家の数を増や
す。**

めに、農家の人たちが取り組んでいることを調べましょう。

- む せんまい

ちち

【自然条件】

- ・豊富な雪どけ水がある。
- ・夏の時期に昼と夜の気温差が大きい。 など

【農家のくふうや努力】

- ・地域の農家どうして、米づくりの勉強会を開いている。
- ・農業体験を行っている。など

【農家を支える人々】

- ・ 研究所が品種改良をして、新しい品種を開発している。
- ・ 南魚沼の米を売る店が各地にある。 など

だから、南
魚沼市で
は米づく
りがさか
んだ。

④これからの米づくりに大切なことは何だと思いますか。考えを書きましょう。

が大切だと思う。

なぜなら、自分の考えを書きましょう